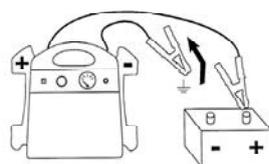
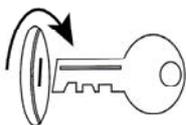
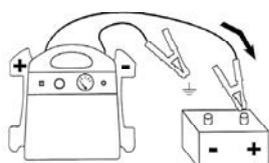


SOSブースター取扱説明書 DC12V (12V/24V仕様は5頁以降参照)

1, 注意事項

- 1-1 SOSブースターを使用する前に、必ずこの取扱説明書をお読み頂き、よくご理解頂いた上でご使用下さい。これをよく読まずに使用されると、このSOSブースターを破損させるだけでなく、命に関わる重大な事故につながる恐れもございます。
- 1-2 このSOSブースターの保管場所には、通気のよいところをお選び下さい。
- 1-3 このSOSブースターをご使用される時は、防護用メガネを装着してください。
- 1-4 このSOSブースターは、使用前に24時間以上の充電をしてください。

2, 取扱説明書



2, 1 自動車の始動 (必ずエンジンキーをOFFにしておいてください。)

2, 1-1 接続

最初に赤色クランプを、バッテリーの(+)端子へ接続し、その後青色クランプ(-)をボディアース (火花が出ても支障のない場所) で接続してください。

2, 1-2 エンジンスタート

エンジンキーを、**最大で10秒間ON**にして始動します。1回で始動しない時は、その後最低でも**3分間待って**から再始動してください。3回以上は止めてください。

2, 1-3 クランプの取り外し

エンジン始動後、青色(-)側を最初に取り外し、その後赤色(+)を取り外してください。

2, 1-4 保管

ケーブルとクランプを、必ずそれぞれの所定位置に戻しておいてください。

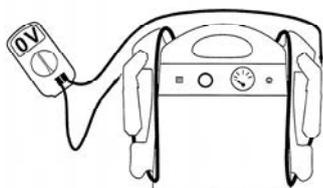
2, 1-5 再充電

使用後すぐに、専用の充電器で再充電してください。また、この再充電は、次回の使用時まで、そのまま続けて充電しておいてください。(次回の使用まで、連続で充電しておいてください。)

2, 2 エンジンスタート

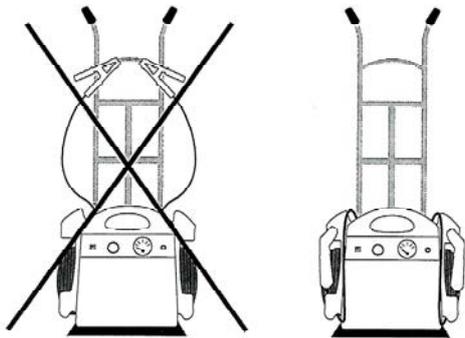
このSOSブースターを使用して、クランキングスタートをする場合、絶対に**10秒以上連続**で使用しないでください。1回でスタートしない時は、**3分以上の間**をおいてから、次のクランキングスタートをしてください。2回でエンジンがスタートしない場合は、他に原因がありますので、その原因を調査、修理を行ってください。

2, 3 安全保護機能



ご使用のSOSブースターには、内部ヒューズが装備されており、長時間(連続**10秒以上**)のクランキングスタートや、回路にショートが生じているような場合には、ヒューズが切れSOSブースター本体を保護します。これは、赤色(+)と青色(-)クランプの通電テストを行い、0V表示でヒューズが切れていることを確認できます。

2, 4 保管



2, 4-1 このSOSブースターは、どの様なところでも保管できます。

2, 4-2 0°C以下の保管は止めてください。10°C～25°Cの間での保管が最適です。

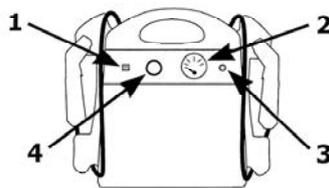
2, 4-3 長期間の保管が必要な場合は、連続で充電しておくか、最低でも3ヶ月に一度は、48時間以上の充電が必要です。

2, 4-4 必ず、赤色、青色のクランプを、それぞれ所定の位置にクランプさせておいてください。

絶対に、赤色、青色のクランプを接続しないでください。

(他の金属部分にもクランプさせないでください。)

3, 1 各部の名称



1, 外部ヒューズ

2, ボルトメーター

3, プッシュボタン

4, 出力側 シガソケット

3, 2 ボルトメーター

プッシュボタンを押すと、バッテリーの充電状態が解ります。充電後、30分を経過した時に、ボルトメーターがDC 13V示していれば満充電です。

3, 3 オルタネーターテスト

エンジンをスタートさせ、回転数を2,000rpmで維持し、SOSブースターを接続したままで、プッシュボタンを押し、その目盛りがDC 14.0～14.4Vの間であれば、この車のオルタネーターは正常と判断できます。

3, 4 SOSブースターは、絶えず付属の充電器に接続して充電しておいてください。SOSブースターは、使用后すぐに付属の充電器で充電を行ってください。この充電器は、すべて自動で充電をし続けます。

3, 5 シガソケットケーブルでの充電

このSOSブースターは、エンジンが回転している間は、シガソケットから充電することが出来ます。それには、その車のオルタネーターが正常に作動していて、DC 14.0～14.4Vの電圧が出力されていることが必要条件です。SOSブースターは、シガソケットからの連続充電はOKですが、数日間使用しない時には、車から取り外して付属の充電器で充電を続けてください。(ブースターの自然放電を防げます。)

4, 充電：SOSブースター内の、バッテリーを長寿命で使用するために、絶えず付属の充電器で充電し続けてください。

4, 1-1 このSOSブースターは、使用する時以外、付属の充電器で充電してください。DC 12.4V以下での充電では、バッテリー内部にサルフェーションを発生させ、それが原因でパワーを落とします。低電圧での充電、長時間の無充電は、サルフェーションを発生させます。使用しない時は、必ずDC 13Vを維持するように、付属の充電器に連続で掛け続けてください。

4, 1-2 SOSブースターは、絶対に付属の充電器以外で充電しないでください。付属品以外の充電器を使用した場合、破損だけではなく、爆発することがあり大変危険です。

- 4, 1-3  DC 24Vのシガソケットからの充電は厳禁です。大変危険です。破損だけではなく爆発します。
- 4, 1-4  SOSブースターは、完全にディスチャージ（消費）させないでください。完全放電すると元に戻りません。
- 4, 1-5 シガソケットからの充電には、必ずその車の発電電圧をチェックしてください。正常なオルタネーターは、2000rpmでDC14.0～14.4Vを発生しています。シガソケットの電圧が、DC13V以上なければ充電は出来ません。

4, 2 クランクスターティング

- 4, 2-1  **重要**：SOSブースターを使用し、10秒間連続クランキングでエンジンスタートしない時、3分間の休み時間後、2回目のクランキングでもエンジンがスタートしない時は、下記のような状況が考えられます。
 - a. SOSブースターのバッテリーが充電不足
 - b. SOSブースターのバッテリー周りが過熱気味 → 1時間以上冷ます
 - c. SOSブースターのバッテリーが寿命（要交換）
- 4, 2-2  **重要**：絶対にブースタークランプをショートさせないでください。赤色クランプ(+)と青色クランプ(-)とを接続させたり、赤色クランプ(+)をアースに接続させることは絶対に避けてください。ヒューズが瞬時に切れます。
- 4, 2-3  **重要**：絶対に、ショートしているスターターや、バッテリーに接続しないでください。
- 4, 2-4  **重要**：絶対に、バッテリーのない状態での接続や、バッテリー電圧が0Vの状態での接続は止めてください。
 **重要**：上記の様な使用は、オルタネーターを破損させます。

- 4, 3 **注意**  **重要**：取扱説明書をよく理解されてご使用頂ければ、このSOSブースターは長く性能を維持することが出来ます。つまり、使用後付属の充電器に常に掛けておけば、このSOSブースターの性能を長期間維持できます。

5, 自動車の電装パーツ

- 5, 1 歴史：この20年間、自動車とエンジンはどんどん高度化されてきました。SOSブースターは、これらの車ほとんどの、新旧スターターに適用できます。
- 5, 2 カーメーカーからの要望：たくさんの修理工場からの要望に対し、いくつかのカーメーカーは、保証の問題から逃げられるバッテリー不良という事で処理しようとしています。そのため、バッテリーをいじる前には、必ず自動車のユーザーマニュアルを読解しておくことが重要です。私どものSOSブースターは、カーメーカーの要望に、ピタリと適合していますので、何ら心配事項はありません。

5, 3 高電圧サージについて

問：多くの電装パーツが破損する原因は？

答：高電圧サージによる

高電圧サージは、小さなスパークや、電位差の異なる静電気（ショートサーキット、逆極性接続、短時間でのON・OFFの繰り返し、スパークコントローラーを取り付けなでの溶接作業）によって生じるものです。この高電圧サージは、自動車の電子機器を破壊し、大きな損害を与えます。このSOSブースターを、取扱説明書をよく理解して使用されれば、上記の高電圧サージの発生を防ぐことが出来ます。

6, 質問Qと答えA

6, 1 SOSブースターについて

A, 充電しない

A-1: 付属の充電器に電気が来ていない

A-2: シガソケットの充電器の場合、ワイヤーが接続されていない

A-3: 付属の充電器が壊れている

A-4: バッテリーがダメになっていて充電できない

B, パワーがない (まず、赤色・青色クランプ間の電圧を計る)

B-1: 電圧が0Vの場合 → 内蔵ヒューズが破損している

B-2: 電圧が0V以上ある場合

B-2-1: SOSブースターが充電されていない

(赤色・青色クランプ間の電圧がDC 13V以上あるかチェックする)

B-2-2: バッテリーの能力が下がった

a. サルフェーションが増えた → ブースターの充電をしなかった

b. 付属の充電器を使用せずに充電した、または市販のフルオートマチック充電器で、急速充電 (<fast charge>または<boost>) ポジションを使って充電した

c. DC 24Vで充電してしまった (長時間すると爆発の危険)

B-2-3: バッテリー内のエレメントが破損した → 取扱説明書通りにクランキングしなかった (10秒以上、または3分間休ませずに使用した)

B-2-4: バッテリーがダメになっている

a. DC 24Vを接続した

b. DC 24Vで充電した

c. DC 12V車で、オルタネーターが破損している車で充電した
(高電圧が掛かったための破損)

d. 指定の充電器で充電しなかった

B-2-5: バッテリーが破損した → 完全放電させてしまった

C, ボルトメーターが0Vを表示している (赤色・青色クランプ間の電圧をチェック)

C-1: 0V表示の時 → 内蔵ヒューズが破損している

C-2: 測定電圧はOKの時 → ボルトメーターまたはプッシュボタンが壊れている

6, 2 基本的な質問

6, 2-A: SOSブースターの大容量機器で、小さいバイクなどに使用した時

→ 全く問題ありません、エンジン始動に必要な分しか使用しません

6-2-B: SOSブースターは、私の携帯電話や、冷蔵庫などのバッテリーとして使用できますか → 使用されると、SOSブースターのバッテリーにサルフェーションが発生し、寿命を短くします

6-2-C: SOSブースターは、どれだけ充電すればいいのですか → 通常の使用では、1日の充電で満充電に戻ります

7, 保証

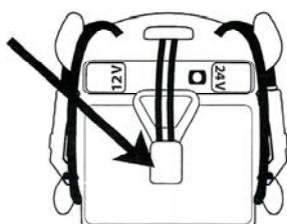
製造メーカーに起因すると考えられる故障は、2年間保証します。必ず、メーカーまたは代理店の指示に従って返却してください。

SOSブースター取扱説明書 12V/24V

1, 注意事項

- 1-1 SOSブースターを使用する前に、必ずこの取扱説明書をお読み頂き、よくご理解頂いた上でご使用下さい。これをよく読まずに使用されると、このSOSブースターを破損させるだけでなく、命に関わる重大な事故につながる恐れもございます。
- 1-2 このSOSブースターの保管場所には、通気の良いところをお選び下さい。
- 1-3 このSOSブースターをご使用される時は、防護用メガネを装着してください。
- 1-4 このSOSブースターは、使用前に24時間以上の充電をしてください。

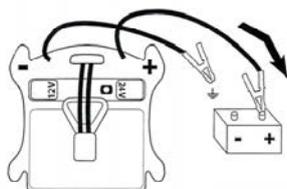
2, 取扱説明書



2, 1 自動車の始動 (必ずエンジンキーをOFFにしておいてください。)

 **重要**

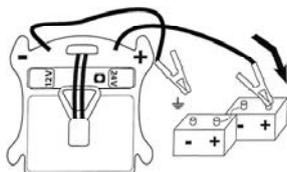
2, 1-1 DC 12V、DC 24V 電圧選定コネクタは、必ず取り外しておいてください。



2, 1-2 SOSブースターの接続方法

2, 1-2 A DC 12V車の場合

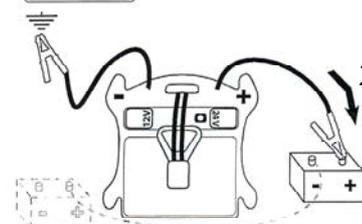
最初に赤色クランプを、バッテリーの(+)端子へ接続し、その後青色クランプ(-)をボディーアース (火花が出ても支障のない場所) で接続してください。



2, 1-2 B-1

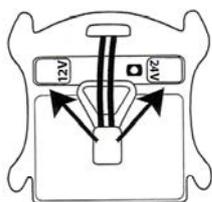
DC 24V車で、DC 12Vバッテリーが並列にある時

・赤色クランプをDC 24Vの(+)端子へ、青色クランプ(-)をボディーアース (火花が出ても支障のない場所) で接続してください。



2, 1-2 B-2 DC 24V車で、DC 12Vのバッテリーが離れたところにある時

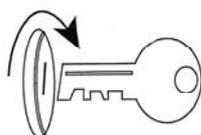
・赤色クランプをDC 24Vの(+)端子へ、青色クランプを車体のボディーアースに接続します。



2, 1-3 電圧の選択

DC 12VまたはDC 24Vの電圧選択コネクタへ接続

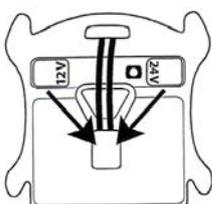
 **重要**：この電圧選択コネクタが接続されると、赤色クランプには+DC 12Vまたは+DC 24Vが、青色クランプにはDC 0Vが掛かります。



2, 1-4 エンジンスタート

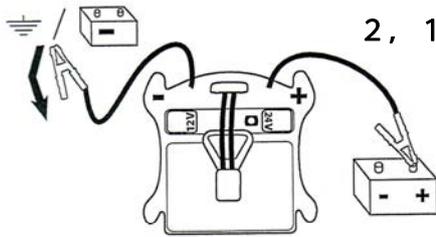
エンジンキーを、最大で10秒間ONにして始動します。

1回で始動しない時は、その後最低でも3分間待つてから再始動してください。3回以上は止めてください。



2, 1-5 電圧選択コネクタの取り外し

エンジンが始動したら、電圧選択コネクタを取り外してください。



2, 1-6 青色クランプ(-)、赤色クランプ(+)の取り外し

最初に青色クランプ(-)を取り外し、その後で赤色クランプ(+)を取り外してください。



2, 1-7 保管

赤色クランプケーブルを本体に巻き付け、所定のサポートポストにクランプさせる。同様に青色クランプケーブルを、所定のサポートポストにクランプさせる。

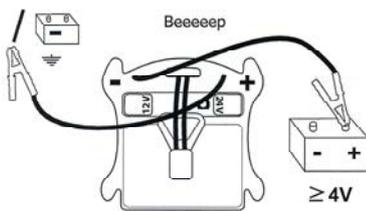


2, 1-8 再充電

使用后すぐに、専用の充電器で再充電してください。また、この再充電は、次回の使用時まで、そのまま続けて充電しておいてください。

(次回の使用まで、連続で充電しておいてください。)

2, 2 逆極性 (+)と(-)を逆に接続した時



2, 2-1 もし、接続が逆極性になっている場合は、DC 4 V以上のバッテリーであれば、ブザーが鳴って警告します。

2, 2-2  **重要**：電圧選択コネクタは、必ず外した状態で接続してください。差し込まれた状態ではショートします。(4, 2-3 A参照) ブザーが鳴らないこと(正常接続)を確かめてから、電圧選択コネクタは差し込んでください。

2, 3 DC 24 V車の、DC 24 V電圧の検出

DC 24 V車では、バッテリーがエンジンの両サイドに別れて設置されている車両があります。(キャタピラー、ボルボ、etc) この場合、DC 24 Vを検出するために、テスターを使用してDC 24 V(+)極と、DC 0 V(-)極を見つけてください。

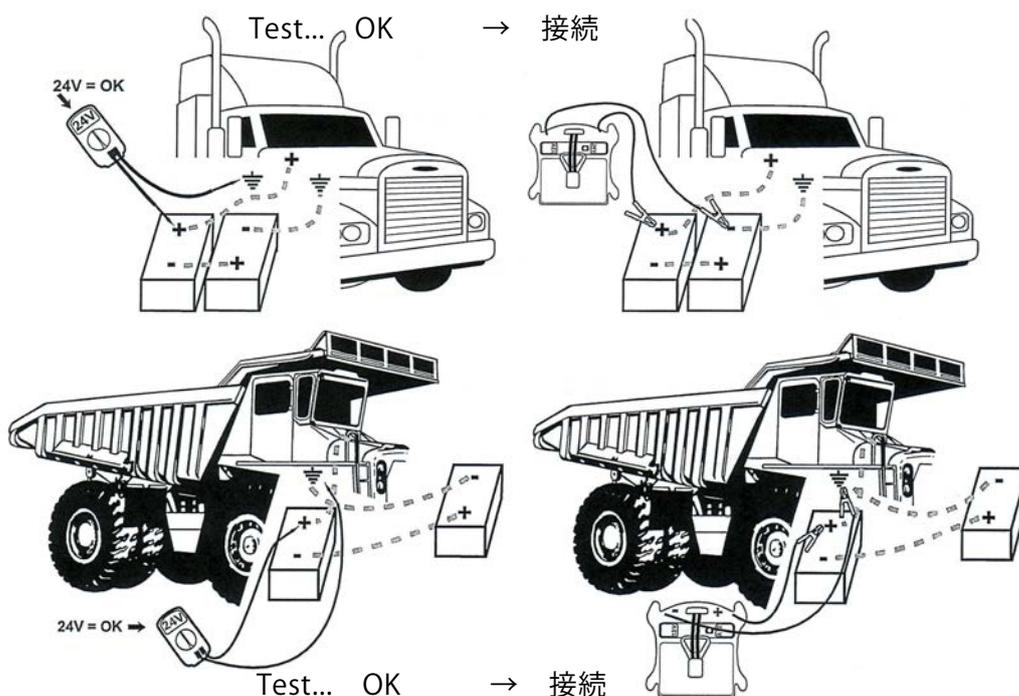
2, 3-1 もし、テスターが、DC 12 Vしか表示しない時は、ここでのSOSブースターDC 24 Vは使用できません。



2, 3-2 テスターが、DC 24 Vを表示していれば、SOSブースターDC 24 Vが使用可能です。

2, 3-3 バッテリーが隣同士に設置されている時は、まずテストをして、DC 24 Vを確認後、SOSブースターを接続します。

2, 3-4 バッテリーが離れて設置されている時は、必ずテスターでDC 24 Vを確認してから、SOSブースターを接続してください。



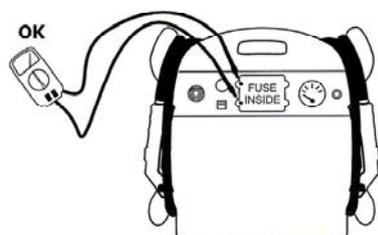
2, 4 エンジンスタート

SOSブースターを使用して、エンジンを始動させる時は、エンジンキーを最大で10秒間ONにして始動します。1回で始動しない時は、その後最低でも3分間待ってから2回目の再始動をしてください。

もしこれでエンジンが掛からない時は、車両の故障が考えられます。ショートやバッテリーが完全に放電（0V・バッテリーが破損）しているなどの問題が考えられます。

注意：もし、SOSブースターが満充電されていて、それでもスターターがゆっくりしか回らないときは、車両のバッテリーがショートしていないかチェックしてください。または、SOSブースターのバッテリーが、悪くなっていないかチェックしてください。

2, 5 安全保護機構



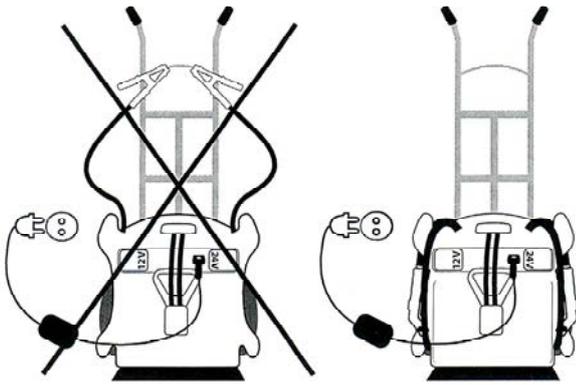
ご使用のSOSブースターには、内部ヒューズが装備されており、長時間（連続10秒以上）のクランキングスタートや、回路にショートが生じているような場合には、ヒューズが切れSOSブースター本体を保護します。これは、左記イラストのようにテスターでチェックできます。

2, 6 保管

2, 6-1 このSOSブースターは、どの様なところでも保管できます。

2, 6-2 0°C以下の保管は止めてください。10°C～25°Cの間での保管が最適です。

2, 6-3 長期間の保管が必要な場合は、連続で充電しておくか、最低でも3ヶ月に一度は、48時間以上の充電が必要です。

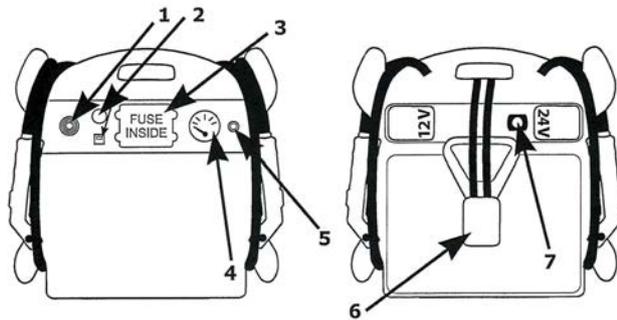


2, 6-4 必ず、赤色、青色のクランプを、それぞれ所定の位置にクランプさせておいてください。

絶対に、赤色、青色のクランプを接続しないでください。

(他の金属部分にもクランプさせないでください。)

3, 各部の名称



1, ブザー

2, DC 12Vの供給口 (16Aのヒューズでオーバーフローを防いでいます)

3, 内蔵ヒューズ

4, ボルトメーター

5, ボルトメーター用押しボタン

6, 電圧選択コネクター

7, 付属充電器の差込口

3, 2 ボルトメーター

押しボタンを押すと、バッテリーの充電状態が解ります。充電後、30分を経過した時に、ボルトメーターがDC 13V示していれば満充電 (正常) です。

3, 3 オルタネーターテスト

エンジンをスタートさせ、回転数を2,000rpmで維持し、SOSブースターを接続したままで、押しボタンを押し、その目盛りがDC 14.0~14.4Vの間であれば、この車のオルタネーターは正常と判断できます。(DC 24V車も同様です。)

⚠ 重要：電圧選択コネクターは、必ず外した状態で接続してください。

3, 4 SOSブースターは、絶えず付属の充電器 (AC 100V用) に接続して充電しておいてください。

3, 4-1 完全にバッテリー容量が無くなるまで使用しないでください。SOSブースターは、使用後すぐに付属の充電器で充電を行ってください。この充電器は、すべて自動で充電をし続けますので、掛けたままでおいても全く問題ありません。

3, 4-2 付属充電器の、オレンジランプが点灯したら、現在充電中を表します。グリーンランプが点灯したら充電終了を表します。しかし、理想としてはこのまま常に、付属充電器に掛けておいた方が、SOSブースターのバッテリーには好条件です。

3, 4-3 赤ランプが点灯したときは、この充電回路内に問題が発生しています。SOSブースターは充電していません。即、メーカーへご相談下さい。

3, 5 DC 12V車での充電

DC 12V車に対応する、DC 12V-DC 12Vのシガソケットから充電できる、接続コードが設定されています。

4, SOSブースター（バッテリー）のメンテナンス

4, 1 再充電（正しい充電の仕方、長くその性能を維持してください。）

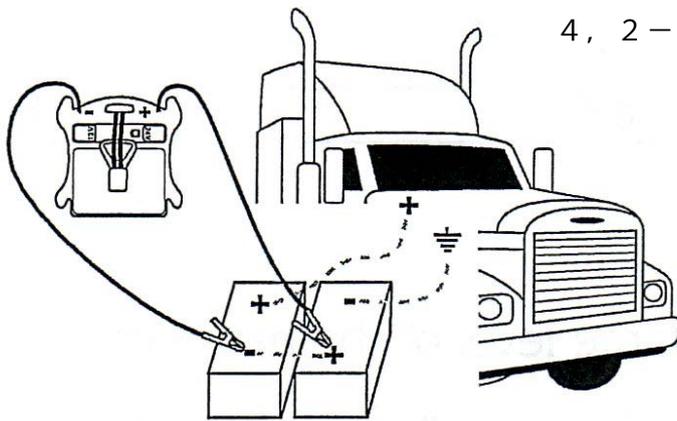
- 4, 1-1 このSOSブースターは、使用する時以外、付属の充電器で常に（充電器に掛けたまま）充電してください。
- ・DC 12.4 V以下での充電では、バッテリー内部にサルフェーションを発生させ、それが原因で再生不能なパワーダウンを起こします。
 - ・低電圧での充電、長時間の無充電は、サルフェーション化を進めます。
 - ・使用しない時は、必ずDC 13 Vを維持するように、付属の充電器に連続で掛け続けてください。DC 12.4 V以下にしないで下さい。
- 4, 1-2 このSOSブースターには、付属の充電器以外では充電しないでください。付属の充電器以外で充電を行うと、DC 14.7 V以上で充電されるおそれがあり、その場合、水素が発生し爆発する恐れがあります。
- 4, 1-3 このSOSブースターの、表側にあるシガソケットからは、絶対に充電しないでください。充電は、裏側にある専用プラグ口から行えます。
- ・この充電専用プラグは4ポールプラグで、2つの内蔵バッテリーを同時に充電することができます。
 - ・表側のシガソケットからは、DC 12 Vのアクセサリなどに電気を供給できます。(max 16 A)
- 4, 1-4 このSOSブースターは、完全放電（0 V）させないでください。メモリー効果はありません。元の性能に戻らなくなります。
- 4, 1-5 絶対にSOSブースターの、赤色、青色クランプを同時に、金属へ接触（接続）させないでください。瞬時に、ポールやクランプ、プラグなどが溶けます。

4, 2 エンジンスタート

- 4, 2-1  **重要**：SOSブースターを使用し、10秒間連続クランキングでエンジンスタートしない時、3分間の休み時間後、2回目のクランキングでもエンジンがスタートしない時は、下記のような状況が考えられます。
- a. SOSブースターのバッテリーが充電不足
 - b. SOSブースターのバッテリー周りが過熱気味 → 1時間以上冷ます
 - c. SOSブースターのバッテリーが寿命（要交換）
- ・もし3分間の時間を空けずに長時間のクランキングをすると、パワーを損失させ、内蔵ヒューズを破損（飛ばす）させることになります。
- 4, 2-2  **重要**：絶対にブースタークランプをショートさせないでください。
(例として下記)

- 4, 2-3 A  **重要**：SOSブースターの赤色クランプ(+)を、バッテリーの(-)へ接続させ、青色クランプ(-)をアースに接続させる。この場合、逆極性のブザー警告は鳴りません。ショートしてしまいます。





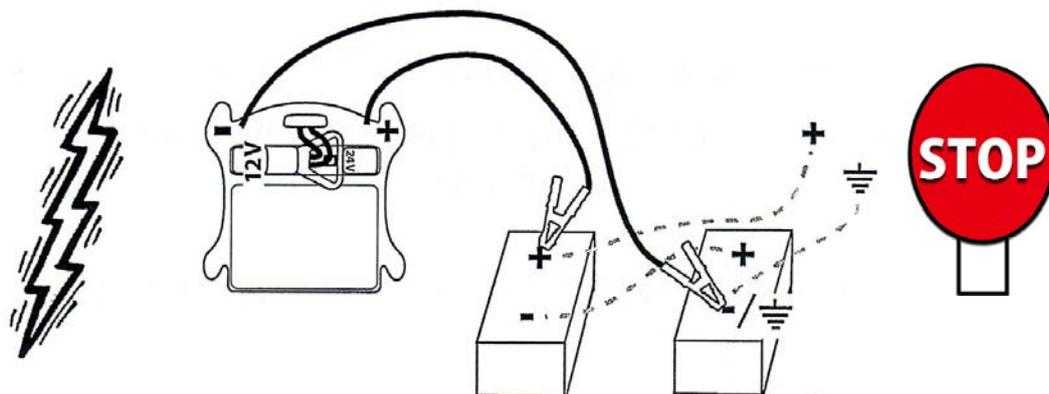
4, 2-3 B ⚠️ **重要**：2つのDC 12Vバッテリーを、繋いでDC 24Vになっている場合、バッテリー同士を繋いでいる(+)と(-)ポールに接続させる。ショートします。

上記A、Bの場合、瞬時にヒューズが飛びます。



4, 2-4 ⚠️ **重要**：絶対に、バッテリーのない状態での接続や、バッテリー電圧が0Vの状態でのエンジン始動は止めてください。この状態で、SOSブースターを外すと、オルタネーターのダイオードを破損させます。

4, 2-5 ⚠️ **重要**：DC 24V車に、SOSブースターDC 12Vポジションでの接続はしないで下さい。バッテリーに水素ガスが発生し爆発します。



4, 3 注意

取扱説明書をよく理解されてご使用頂ければ、このSOSブースターは長く性能を維持することが出来ます。つまり、使用後付属の充電器に常に掛けておけば、このSOSブースターの性能を長期間維持できます。

5, 自動車の電装パーツ

5, 1 歴史：この20年間、自動車とエンジンはどんどん高度化されてきました。SOSブースターは、これらの車ほとんどの、新旧スターターに適用できます。

5, 2 カーメーカーからの要望：たくさんの修理工場からの要望に対し、いくつかのカーメーカーは、保証の問題から逃げられるバッテリー不良という事で処理しようとしています。そのため、バッテリーをいじる前には、必ず自動車のユーザーマニュアルを読解しておくことが重要です。私どものSOSブースターは、カーメーカーの要望に、ピタリと適合していますので、何ら心配事項はありません。

5, 3 高電圧サージについて

問：多くの電装パーツが破損する原因は？

答：高電圧サージによるものです

高電圧サージは、小さなスパークや、電位差の異なる静電気（ショートサーキット、逆極性接続、短時間でのON・OFFの繰り返し、スパークコントローラーを取り付けないでの溶接作業）によって生じるものです。この高電圧サージは、自動車の電子機器を破壊し、大きな損害を与えます。このSOSブースターの、取扱説明書をよく理解して使用されれば、上記の高電圧サージの発生を防ぐことができます。

6, 質問Qと答えA

6, 1 SOSブースターについて

A, 充電しない

A-1：付属の充電器（AC100V）に電気が来ていない

A-2：シガソケットの充電器の場合、ワイヤーが接続されていない

A-3：付属の充電器が壊れている

A-4：バッテリーがダメになっていて充電できない

B, DC12VもDC24Vも全く作動しない

B-1：内蔵ヒューズの破損

C, 全くパワーが出ない

C-1：SOSブースターが充電されていない

C-2：SOSブースターのバッテリーが劣化している

- ・バッテリーがサルフェーション化している → 付属の充電器で全く充電しない
- ・付属の充電器以外で充電した → バッテリーが破損している
- ・DC24V車にDC12Vポジションで使用した → バッテリー破損
- ・DC12V車にDC24Vポジションで使用した → バッテリー破損

C-3：バッテリー内のセルが破損した（2, 4項参照）

- ・取扱説明書の使用方法を守らずに使用した

C-4：バッテリーが完全にサルフェーション化した

- ・DC24V車にDC12Vポジションで使用した
- ・付属の充電器以外で充電した → DC14.4V以上での充電

C-5：バッテリーの能力が下がった

- ・付属の充電器を使用せずに充電した、または完全にディスチャージ（無充電）したバッテリーを充電した

D, ボルトメーターが0Vを表示している

D-1：内蔵ヒューズの破損

D-2：ボルトメーターまたはプッシュボタンが壊れている

D-3：バッテリー電圧がDC9V以下になっている

7, 保証

製造メーカーに起因すると考えられる故障は、2年間保証します。必ず、メーカーまたは代理店の指示に従って返却してください。

延長ケーブルのワニ口グリップの使用方法

簡単に、しかも早く、小さくて、短くて、届かないようなバッテリーターミナルへ、ワニ口グリップをクランプするには、

- 1, 青色クランプ(-)を車体のアースへ
- 2, 赤色クランプ(+)を、延長ケーブルのワニ口グリップへ接続する

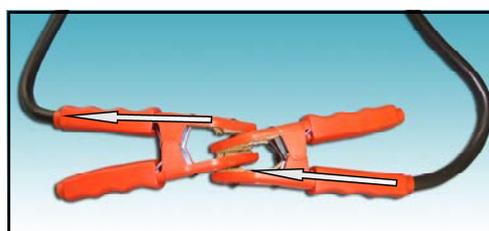
注意：写真の様に、ワニ口グリップ同士を接続する時は、必ずケーブルとケーブルが短絡する様に接続してください。

- 3, それから、延長ケーブルのワニ口グリップ(+)を、バッテリーの(+)端子へ接続してください。

良い接続例



悪い接続例



SOSブースター 12V/24V

DC 12V車で、SOSブースター12V/24Vを充電するには、

→表側にある4ポール充電用ソケットと、車のシガソケットを、付属の雄←→雄コードを使用して接続してください。

→裏の電圧選択コネクターは、取り外しておいてください。

充電に際しての注意事項

もし、車のシガソケットから、SOSブースターへ充電をする時には、必ず、その車の2,000rpmで発生している電圧を、シガソケットの(+)(-)で計測してください。(ソケットの奥中心が(+)、外輪が(-)です)

テスターの数値がDC 14.0V~14.4Vの間に入っていれば、オルタネーターの発生電圧は正常です。

もし、DC 14V未満の時には、SOSブースターへは充電されません。返ってSOSブースターの寿命を短くします。古い車の場合には、全く充電されないどころか、SOSブースターのバッテリーをダメにしてしまう事がありますので注意してください。

⚠ 重要：DC 24V車では充電できません。絶対に、DC 24V車での充電は止めてください。

→なぜならば、DC 14.7V以上の充電では、バッテリー内に水素を発生させ爆発します。

→また、DC 24Vでの充電は、バッテリーを即破損させますので絶対に止めてください。